

2020年9月25日

ほしごらサロン 2020年8月議事録

文責：石橋 愛理

日 時： 2020年8月29日（土）18:00～22:00

場 所： ユリックス会議室 3,4

参加者： 荒巻*，伊藤（美），篠原*，高尾（辰），高木，町田*，松井*，宮田

見 学： 伊藤（淳）

（50音順、敬称略）

職 員： 小野田，平野，角田，石橋，阪本

計 14名

* リモート（Zoom）参加者

1. 10月3日（土）「お月見・火星観望会」について

例年、中秋の名月ごろに観望会を行っている。また、今年は10月6日に火星が地球と最接近することから、火星も観望対象にしたい。次回の観望会について話し合いを行った。

=====当日の流れ（予定）=====

19:30～21:00 天体観望 場所：風の丘

※雨天時、月が見えない場合、屋外での観望会は行わずプラネタリウム解説のみ実施。

19時からプラネタリウム前で整理券配布（9月19日からの制限緩和を受け、定員を80人とする）。19時30分から約30分間の解説。

使用機材：ビクセン屈折望遠鏡×2（月と火星の観望用）

※当日スタッフの参加が多ければ、タカハシ(2), (3)を追加できる可能性がある（木星と土星の観望用）。当日のスタッフの人数・状況で判断。

観望天体：月（月齢16.0），火星 [スタッフの人数次第で木星，土星を追加]

- ・当日、スクリーンを準備し、月の映像（120倍程度ズーム）などを映し出したい。同時にその映像をYouTubeで配信する。
・例年、来場者が着座できるよう、ブルーシートを出していたが、今年は感染症の感染拡大防止対策として出さないこととする。
- =====

（観望対象となる天体、アイピース倍率、使用機材について）

前回は感染症の感染予防対策として、アイピースの上に紙コップをつけて、観望を行った。次回も、前回同様に感染予防対策を講じたい。

宮田： 当日は19時30分から観望会を行うとのことだが、木星と土星も南の方で見えそ

うだ。次回観望会でも観望対象とするか？

角田： 見せたい気持ちもあるが、前回（8月22日）は感染予防対策を講じたこともあり、1台の望遠鏡につき3人ほど必要だった。当日参加のボランティアの数が多ければ、月と火星以外の天体（木星・土星など）を見せることが出来る。

角田： 月齢16のほぼ満月を観望することとなる。低倍率で月全体を見ることとし、アイピース10mm（約70倍）での観望がいいのではないか。

高木： タカハシは木星と土星の観望に適していると思う。月と火星はひとまずビクセンでの観望がいいのではないか。また、前回の観望会では紙コップの抜き差しでピントの調整ネジがずれていってしまった。ピントのネジをしっかりと締めて、定期的に確認をしたい。

-->メインはビクセンで月と火星。低倍率で全体像を見てもらいたい。

-->当日のスタッフの人数により、タカハシ(2), (3)を木星・土星用で追加出来る。

-->前回の観望会の反省を生かし、ピントのネジをしっかりと締めておきたい。

（スクリーンの有無）

例年、スクリーンに月の映像などを映し出し、解説を行っていた。その際、来場者はブルーシートに座ってもらうなどしていたが、今年は来場者の密集や滞留を防ぐために出さない予定である。その状況で、スクリーンを出すか。

小野田： 今回は、来場者の密集や滞留を防ぐために、全体へ向けた解説は難しそうである。せめてスクリーンで月の姿を映し出せないか。

角田： ビデオカメラで120倍程度の月をスクリーンに映し、YouTube同時中継が出来そうだ。

-->スクリーンを風の丘のモニュメント部分に立て、月の様子を映し出したい。同時にYouTubeで中継も行う。

2. 12月20日（日）「木星・土星大接近観望会」について

12月21日に、木星と土星が見かけ上、満月の見かけの直径の約4分の1（約7分角）の距離まで接近する。今回はその前日、日没後の18時～19時のあいだ、観望会を行う。

（使用機材、アイピース倍率）

角田： 1つの視野で2つの天体が見える。観望時間は1時間と通常より短いため、タカハシ(2), (3)と、来場者が多ければタカハシ(1)やセレストロンも動員したいが。倍率はどの程度にするか。

高木： アイピースを10mmとすると、観望対象がすぐに視野から外れてしまう。倍率を上げると木星と土星が端と端になるため見づらくなる。

宮田： 紙コップにあける穴のサイズを今までより大きくすれば、倍率を上げても見やすく

なるのでは。

-->紙コップに空ける穴のサイズを現在のものより大きくすれば、アイピースの倍率をあげても見やすくなる可能性がある。試してみる必要あり。

-->冬季の観望会となるため、レンズヒーターが必要になる見込み。また、風を送れば曇り防止になるかもしれない、との意見もあった（但し、像が揺れてしまう懸念もある）。

（プラネタリウム解説の有無）

観望会当日、晴れの場合は観望会の後にプラネタリウム解説を行うか。

宮田： 観望会後は特に人員が足りず、プラネタリウム解説までは行えないのではないか。

消毒作業なども考えると、現実的ではないのでは。

-->雨天時のみ、17時30分から整理券を配布する。18時からプラネタリウム解説（約30分間）。晴天時のプラネタリウム解説はなし。

3. 合宿について

これまでのサロンでコロナ禍での合宿について、どのようなことに配慮すれば実施可能か、合宿開催の可否や時期についての話し合いを行っていた。案として、10月18日（日）プリンセス駅伝開催に伴う休館にあわせた開催、または9月の連休中はどうかといった話があった。

宮田： 宿泊ではなく、有志の日帰り合宿という形でもいいのでは。日帰りで、清和高原天文台や県内のどこかへ星を見に行くという選択肢もあるのでは。

篠原： 他者との長時間の接触時間を短くしたいということならば、参加者の半数は宿泊・半数は日帰りという形をとれば、分散できるのではないか。

-->日程について、事前にほしごらスタッフメーリングリストで希望者を募っての開催ということであれば、基本的にはいつでも実施可能。

-->職員立ち会いの下であれば、望遠鏡等の貸し出しも可能。その際、メーリングリストを通じて連絡をすると、ボランティアの活動として認められ、保険対象になる。実施の場合、事前の呼びかけをお願いしたい。

4. クリスマス時期のボランティア活動について

今年度のクリスマス番組は、職員が制作することになっている。例年同様、12月こども向け番組投影の前後に、サンタやトナカイに扮しての出迎えや見送りはお願いしたい。

ボランティアによるクリスマス番組の制作がない今年度は、番組制作以外でボランティア活動が出来ないか、話し合いを行ってきた。

これまでのサロンで、クレヨン型ろうそくの製作・紙芝居・オリジナル缶バッジ製作・スクイーズ作り・望遠鏡製作といった案が出ていた。

宮田： 自分の望遠鏡を製作し、木星と土星の接近を見てもらうのはどうか。

角田： 今年は小学生向け講座（ほしざら友の会）も中止になっていることもあり、望遠鏡製作は良いかもしない。

-->小学生 4~6 年生向け講座として、12 月の土日の午前中、もしくは 15 時ごろからの開催を検討中。なお、一回の定員は 10 人ほどとしたい。

詳しい日程や時刻等については、今後のサロンで決定したい。

次回のサロンは 9 月 26 日（土）です。